

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の―線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 道路をカクチヨウする。
- 2 トコナツの国を旅行する。
- 3 正しいシユダンを考える。
- 4 コウハクに別れて試合をする。
- 5 長い時間を費やす。
- 6 月刊誌の付録を楽しむ。
- 7 権利はみな平等である。
- 8 鋼鉄のような筋肉。

問二 次の文の空欄にあてはまる言葉をそれぞれのア・イから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|----------------|------------|---|----|
| 1 | 会場内ではフラッシュの「 | 」は控えてください。 | ア | 利用 |
| 2 | 彼は最高の結果に「 | 」の笑みを浮かべた。 | ア | 会心 |
| 3 | 文化祭での発表に全精力を「 | 」する。 | ア | 注入 |
| 4 | 火災が発生した「 | 」を探る。 | ア | 原因 |
| 5 | コンピュータの誤作動により「 | 」不能におちいった。 | イ | 制限 |

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本人は、真面目で勤勉だとよく言われますが、勤勉さというのは、へんにスイッチが入ると、自分で自分を追い込んでしまう、**A** 両刃の剣でもあると思います。自分が体を壊すまで働いてしまったので**ヨケイ**にそう思うのかもしれませんが、真面目さも度を越してしまおうと、**I** 自分で自分を鼓舞することになって、**レイセイ**な判断力をなくしてしまう。その結果、いわゆるランニングハイの状態になって、脳内にアドレナリンみたいな自己陶醉をさせる成分が出ちゃうんじゃないか。

そうならず済むように、人間には考える力が与えられていると思うのですが、現代という時代は、**B** そんな知性でさえ、お金と結びつけるのが当たり前みたいになっています。「人間は教養がなければ生きていけない」という考え方と、「そうしないとお金がもらえないからね」という強迫観念が結びつくと、どうなるかといえば、アメリカのシカゴの学校で目の当たりにしたみたいに、あらゆる人が早くからふるいにかけられ、社会に利益をもたらす一部のエリートと、そうじゃない大多数のダメなヤツに二分化されることになる。機械でもあるまいに、生産性のあるなしで、人間が分けられてしまうというわけです。

この考え方の恐ろしいところは、あたかも社会というのは、そもそもそういうふうに行きつくと、私達に、思い込ませようとしてくることにあります。そんな当たり前の常識も、わからないなんて、こっちの方が世間知らずだと言わんばかりです。働かざる者、食うべからず。弱肉強食の現実を生き延びた者だけが、幸せになる権利がある。幸せになりたいんだったら、もっと頑張れ、もっと働け。

働いて、働いて、でもそれはいったいなんのためなのかもわからなくなっても、働き続ける。そんな生き方の先に、幸せがあるだなんて、**II** 思えません。

「生産性のない人間には価値がない」という主張をする人達は、自分たちだけは勝ち抜けることができると、どうして信じていられるのか。昨日は笑っていた人間が、明日には絶望の底に叩き落とされ、泣くかもしれない。病気になることもあれば、突然、事故にあうことだってあるかもしれない。本人の意志とか頑張りでは、どうにもならないことがあるのが、生きていくということなのです。どんな国で生まれ、どんな境遇で育った人間であろうと、これだけは、***1** 普遍的な真実です。

C そんな大前提をそっこのけにして、手前勝手なことを言われたって、そんな言い分に耳を貸す必要なんて、本当はないのだと思います。

社会というのは、もともと人間が作ってきたものなんですから、もしそれが本当に現実だというのなら、みんながちゃんと幸せになれるように、不都合があったり、おかしいことがあれば、みんながよくレイセイに考え、

III

手を加えて変化させていけばいいのです。

何かと言えば、弱肉強食と言いたがる人達は、自然界の摂理^{*2}なんて、

IV

何もご存じないに違いありません。鳥や獣^{けもの}の方が、自分達

が X¹ していくためにどうしたらいいのか、よっぽど、わかっている気がします。生きとし生けるもの達を、よくよく観察してみれば、弱肉強食どころか、棲み分け、譲り合い、分かち合っている。そんなこともわからないで、傍若無人^{*3}に振る舞っているのは、むしろ人間くらいです。

世の中は、お金で動いているかもしれないけれど、お金だけで動いているわけじゃないし、お金では測れないものがあるのです。

それなのに闇雲^Dな実利主義^{じつりしゆぎ}を振りかざして、知識や教養まで、お金を稼ぐことに役に立つかどうかで、有益か、そうでないかを決めようなんて、浅はかで、ナンセンスな話です。

(ヤマザキマリ『仕事にしばらくられない生き方』より)

*1 普遍的 すべてのもに共通していること

*2 摂理 自然界における法則

*3 傍若無人 自分勝手にふるまうこと

問一 ――部①②③のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 ――部A「両刃の剣」とありますが、次の質問に答えなさい。

①「両刃の剣」はどのような意味ですか、その意味として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 適当な時期が過ぎれば、もはや何の意味も持たないということ。
- イ 小さな差はあるが、本質的には大した差がないということ。
- ウ 一方では非常に役立つが、他方では損害をもたらすということ。
- エ 一方の行動によって、同時に利益を収めることができること。

② 本文において、「両刃の剣」とは、何を意味しているのですか、その説明として最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 真面目さというものは、勤勉さと似ているが違うということ。
- イ 落ち着きを失うことによって、ランニングハイの状態になってしまうこと。
- ウ 自分を自分で追い込むと、自己陶醉させる成分がでてくるということ。
- エ 勤勉さは、度を超えてしまうと自分を追い込み、体を壊してしまうこと。

問三 空欄部 **I** ～ **IV** にあてはまる語句として適切なものをそれぞれあとの**A**～**カ**から選んで、記号で答えなさい。

- ア どうにか
- イ ひたすら
- ウ おそらく
- エ すっかり
- オ とうてい
- カ やすやすと

問四 — 線**B** 「そんな知性」とありますが、「そんな知性」とはどのようなものですか、本文中より**四字**でぬき出して答えなさい。

問五 本文中の**いる**と同じ使い方の「いる」として最も適切なものを、あとの**A**～**エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学校に**いる**間、携帯電話を使うのはよくない。
- イ 歩いて**いる**ときに、よそ見をして誰かとぶつかってしまった。
- ウ お小遣いで、本当**に**いると思うものを買いなさい。
- エ あそこ**に**いる人は、友だちのお兄さんらしい。

問六 — 線**C** 「そんな大前提」とありますが、それが書かれているひと続きの**二文**をぬき出して、初めと終わりの**五字**を答えなさい。

(句読点は字数にふくめません)

問七 — 線D「闇雲な実利主義」とありますが、筆者は「実利主義」をどのような考え方だと述べていますか、本文中の言葉を使って六十
字以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

生産性 お金 知識や教養

問八 空欄部 X にあてはまる語句として、最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 進化 イ 両立 ウ 共存 エ 競争

問九 本文の内容を説明したものととして、最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア アメリカのシカゴには、一部のエリートだけを集めて教育している学校がある。
イ 筆者はわけも分からず働き続けることによって、自然と幸せが手に入ると考えている。
ウ 人間の価値は生産であると思っっている人達は、自分だけは勝ち残れると思っっている。
エ 世の中は、本人の意志や頑張りでどうとでもなるものばかりである。

三

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

春がきた。

ところが少年はねむいどころではなかった。朝も起こされなくてもちゃんと目をさます。とびおきて蒲団をまくりあげ、前の晩から寝押ししておいたズボンをはいて、すぐ洗面所へ行く。

父の櫛を水でぬらして、鏡の前で寝ぐせのついた髪をとかす。それから、父がひげを剃ったあとに使うアメリカ製の白い粉を必要もないのに顔に塗ってみる。中学生の顔洗いはずいぶん長くかかる。彼は歯が乱ぐい歯なのと、いくらみがいても白くならないことでいらいらして、それでいつも時間をむだにしてしまうのである。

① 彼がめかしているあいだ、痲癩もちの小さな男の子がいる隣りの家ではきょうも朝早くからおもちやのピアノの音がしていた。誰も弾いていないのに鳴っているというふうには、ガラスの楽器のような澄んだ音がする。

水をつかいながら、少年はいけないことだと感じながらもつい隣りの家のほうをのぞいて見るのだった。青いこまかい葉をいちめんにつけた藤棚のむこうは繁みの蔭で暗いほどだった。その暗い部屋からピアノの音はしていた。

春がきたのだ、と少年は思った。春がきたことがこんなにうれしいことはいままでになかった！

彼はもう一度、鏡の中を見た。鏡にうつっている少年はわざとのように浮かない顔をしていた。その顔はこういつているようでもあった――僕にはほんとうのところよくわからない。彼女が好きなのかどうか、これが好きだということなのかどうか。わかっているのは、彼女のことを考えはじめるともう何にも手がかかないということだ。

少年はその顔で食堂へ行った。父はもう出かけたあとだった。

母と二人でする食事のさいちゅう、彼は何度も子供部屋の柱時計に目をやった。

彼は食べたくない。それでもなんとか食べようとするのは母にあやしまれないようにするためである。

母はたえず少年を観察している。

「あんたが勝手に起きてくれるから、おかあさん、とても助かる。」

「朝みんなとソフトボールをやるから。」

彼は口をうごかしながらいう。

「だから、早く行って場所をとらなきゃならないから。」

少年は母にうちの時計は正確かどうかときいた。母は狂^{くる}っていても一、二分だといった。でもその一、二分が彼には問題^Aだった。少年は毎朝「百合」の生徒たちが乗る江^えの島行き^Bの電車に合わせて家を出るのである。彼女はその十分前に玄関^{げんかん}を出てくる。

おたがいの家は五十メートルと離^{はな}れていないのにうまく出会うことはとても少なかった。少年は歩きながらしよつちゅう道の前とうしろに気をくばり、わざとのろのろ歩いたり急に思いなおして早足になったりした。そして駅へ着いてからほんの一、二分のあいだ、向かい側のホームに彼女が靴^{かばん}をさげて一人でぼんやり立っているのや同級生とおしゃべりしているのを、あまり見すぎないように意識して見るのであった。

その朝、彼女がちょうど門から出てきたところへ少年が行った。(a) まだ二十メートルもはなれていた。その二十メートルを彼はうつむいて歩いた。

^C 彼女は門のそばの石垣^{いしがき}にもたれるようにしていた。——頭^③をかしげて、年上らしい落ちついた目をして。

「おはよう。」

彼女のほうから大きな声でいった。

少年はもつと近づいてから、それも小さな声でしかいえなかった。(b) 彼は何かいわれてもただおどおどするだけだった。そしてひどく急ぎ足になった。(c)

彼女は小走りしながら腕時計^{うで}を見た。

「何分の電車に乗るの？ おくれそう？」

「さあ、どうかな。」

彼は逃げるようにして、わき目もふらずにとつと歩いた。

「じゃあ走れば。いっしょに走ってあげる。」

そこで彼は走りだした。これはおかしなことになったと思いつつながら。

彼女も走ったけれど、たちまち少年にひきはなされた。彼はかまわず走りつづけた。走りながらやっぱりどうしても彼女が好きなのがわかった。好きだ。彼はうしろも見ずに走った。

彼女は途中でのびてしまっていた。少年がふりかえると、手で小さなバイバイをして先に行けといった。

「おくれるといけないわ。」

で、彼はまた走らなければならなかった。(d)

夕方学校から帰ってくると、少年はまっさきに通りへ出て、斜むかいの家の勝手口から目をはなさないようにした。雨さえ降らなければ彼の見張りは毎日かさず同じ時刻におこなわれた。その時間になると彼女がちいさな弟たちを夕飯に呼びに出てくるからである。

彼女のすがたが見えると少年はもうじつとしていられないので、彼が相手にするには幼すぎるような子供たちと遊戯に熱中するふりをした。そのあいだも頭はひとつのことではいっばいだった。——自分の気持を相手に知らせる決心がつくかしら。でもどうやって？ それを考えると彼の心は早くもしぼんでしまうのだった。

その晩も彼女は少年の家の前まで来ていた。すこしはなれると顔はもうよく見えなかった。彼女は何度も弟たちの名前を呼んだ。

彼は小さな男の子たちを相手にますますはしやぎながら、夕闇をすかしてたえず彼女の姿をさがした。

(阿部昭『あこがれ』より)

問一 ――線部①～③の表現や語句の本文中における意味として適切なものを、それぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① めかして

ア 気持ちを整えて

イ おしやれして

ウ 準備して

エ あわてて

② しよつちゆう

ア 意識して

イ 意識しないで

ウ ほとんどしないで

エ たえず何度も

③ かしげて

ア 上を向いて

イ かたむけて

ウ うなずいて

エ 横にふって

問二 ――線部A「その一、二分が彼には問題だった」とありますが、なぜ「問題」となるのですか、本文中の言葉を使って三〇字以内で答えなさい。

問三 ——線部B「電車にあわせて家を出る」とありますが、次の条件をふまえて、少年が家を出るときに**少年の家の時計が示す時間**を答えなさい。また、解答は**漢数字**で答えなさい。

条件 ① 彼女が乗る電車は八時三十分とする。

② 少年は彼女が家を出る三分前に出発する。

③ 少年の家の時計は二分遅れている。

問四 本文には次の一文がぬけています。この一文が入る部分として、最も適切な場所を本文中（a）～（d）から一つ選んで記号で答えなさい。

少年の心はおどった。

問五 ——線部C「彼女」とありますが、本文中から分かる「彼女」について説明したものととして適切なものを、あとの**A～D**からすべて選んで記号で答えなさい。

A 少年と同級生である。

I 弟たちがいる。

ウ 少年の家から彼女の家まで二〇メートル離れている。

E 江の島行きの電車で登校している。

オ 毎朝一人で電車に乗っている。

問六 — 線部 D 「これはおかしなことになった」とありますが、何が「おかしなこと」のですか、少年の気持ちをふまえて、**六十字以内**で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

急ぎ足
おくれる

問七 本文中の **せる** と同じ使い方の「せる」を用いて、短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問八 本文の内容について説明したものと最も適切なものをあとの **ア**、**イ**、**エ** から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 少年と彼女は、おたがいに好き合っているのになかなか言い出せない状況が描かれている。
- イ** 彼女は少年が家の前を通ることを知っていたので、石垣にもたれて少年を待っていた。
- ウ** 少年は走りながら彼女のことを考え、改めて自分自身が彼女のことを好きだと気づいた。
- エ** 少年は最終的に、彼女に自分の気持ちを打ち明ける決心をして、彼女を夕闇の中で探そうとしていた。

問題はこれで終わりです。